

常磐炭輸送用の 無蓋貨車を改造

空氣制動機附貨車の常備
運用率が振はぬ爲

鐵道局では常磐炭の輸送用として従来二三七〇〇號型六輪の無蓋貨車を使用してゐたが運用率が甚しく不良の爲め當局としては之れを轉屬する かの或は改造しては何うかの議が起り該貨車の過去一ヶ年間に於ける運用の實績や運用効率、及存廢に對しての意見等に就て考究してゐるが同車は去る大正七八年頃の財界好況時代に石炭の輸送が繁忙となつた當時炭礦の一般希望 によつて製造したものでその當時既に炭礦側では使用を厄介視してゐる傾向があつたが當時は一般に貨車が排底して配車も意の如くでなかつた處から證術なく使用したので相當に運用効率は良好であつた、然るに其の後事業が不振に陥つた關係で輸送界も 衰微するに伴つて漸次遊泊する期間が永引きその上本年春からは空氣制動機附の貨車を常備する事になつたので殆ど同車の必要は失くなつたもので當局としても早晚改造する意向である

送別大演奏

聚樂館に催す

平町舊城跡に假寓中の山田流琴曲の大家上原眞佐喜氏は近く歸京すべき豫定である爲め来る二日同氏の送別大演奏會を聚樂館に催し其(純益を警城訓育院に寄附する事となつた由

土地調査が 豫定通り進行

平税務署では本年四月から

岡部署長以下廿名を總動員して土地賃賃價格の調査をしてゐるが同管内の各地目總計は四十余萬筆の多きに達し八月中大体内部的の調査を済まし九月から外部の實地調査に入つたがすつて

平消防組が 秋季檢閲執行

平消防組にては本日午前十

時より秋季檢閲を行へ午後二時より谷口樓にて慰勞會を兼ね井上組頭の全國消防大會に關する報告あつた由

御帳台拜觀

子歛倉神社にて

縣社子歛倉神社にては氏子一同から献進した御帳台(御神体の御座所)の調製成り七日到着した爲め拜殿内に假取付を爲し八日一般に拜觀せしめられた

上原氏の

軌道延長は今や 全町の重大問題

長橋町區民大會を動機に
國道通過を熱望

順調に進行した今では平町山田村上下小川村湯本町の田畑と町部宅地を除きいづれもその編級調査がおね一般の成績良好で不平の聲もまかないといふ

湯本軌道を平町東部に延長すべき件に關しては既記の如く最も重大な關係を有する長橋町が區民大會を開いて議決の結果

一、長橋町の國道に敷設通過する様變更されたし
一、從來四間巾の路面を六間巾と爲すべき爲め同町南側一帯二間宛を土地買収され度し

と決定したが是れが導火線となり五丁目を急先鋒とし本町通り各區擧つて何れも國道通過に變更されたことの意圖を抱くに至り先づ各町の足並みを揃へて是れが實現を迫るの必要が生じた爲め昨昨から引續き本日午後三時から開かれる筈であつた土木委員會に對し

町營住宅 審議

近く委員會に

伏見平町長は既報の如く私かに町營住宅の計畫を立て調査中であつたがいよいよ決行する事となり町是の一案件として町是調査委員會に提出し近く第一回の審議を遂げる筈である

射道の審査

来る十日に

東京大日本射覺院にては来る十四日午前十時より平町鐵道俱樂部道場に於て本年度の秋季審査大會を催す筈であるが當日の順序は左記



家庭欄

カレーうどん

材料五人前乾うどん二把、牛肉五十匁、玉ネギ五十匁、カレー粉大匙一杯、バター又

はラード少量メレンゲ粉大匙二杯、うどんを軟かくうでて牛肉と玉葱は細く切つて置きます鍋にバターラード少々をとかしてメレンゲ粉を狐色になるまで煎り、カレー粉を加へて尚煎ります次に湯を四合程加へてのぼし深鍋に移して中火にかけて置きます、フライパンに

石城の鬼熊が川前 發電所附近を 平署から警官隊急行

石城郡赤井村福島炭礦坑夫

同郡小名濱町古港生れ小野初太郎(三)が石城郡内郷村宮警城炭礦坑夫根本顯隆(四)一方にあれば込み及渡り九寸餘の鋭利なる黒鞘短刀を揮つて同人及妻は(三)の兩名に頸死の重傷を負はせ逃走した事件あつたがその行衛については平署で非常線を張り引續き犯人嚴探中の處本日午後一時川前村發電所附近を徘徊中なる旨急報あつた爲め平署よりは

不義の棲重

慘劇迄の道程

別項初太郎が第二の鬼熊として一般から恐怖の念を抱かれるに至つた原因は同人は本年二月中警城炭礦坑夫として働いてゐる内後山婦と馴れ染め夫顯隆の

顔面其の 他數ヶ所

に切りつけ其の場に昏倒せ

を樂んで居たのを七月中顯隆が嗅ぎつけ將來を戒めたが性が淫奔なはなは途に初太郎と謀し合せ八月六日夜手を携へ駆け落ちし前記福島炭礦に世帯を持つてゐたが最近仲裁者あり去る三日はなは顯隆の許に立ち歸つた處

初太郎は 兇行當日

五日午前中幾分酒氣を帯び腹巻のドンブリに兇器を忍ばせ根本方を訪ねた處夫婦は恰も夜の出番なので二人同じ夜具に就寝中なるを覗き込み一層逆上したるものが矢庭に顯隆の頸部へ切りつけ深さ二寸餘の重傷を負はせ起き上る同人に躍りか

建設の日近し

松ヶ岡公園に

平町元警中校長植竹源太郎氏の發起にかゝる故大越中佐の銅像建設は着々進んでゐるが建設の場所については松ヶ岡公園を適當とし町當局に請願する五日の町會に付議されたが調査の都合で十日の町會に付議決定することとなつたが多分承認さるべく平町出身青年彫刻家赤堀信中氏の手に成る郷土の生る偉人雄姿を仰ぐの日も近づいた